

2017 第 8 地区 新人選手権大会 試合詳細

2 回戦の都立昭和高校戦が国分寺の初戦でした。この試合はシンプルに手数をかけずにプレーすることと幅を持たせたディフェンスを行うことをテーマに戦いました。

試合開始から相手に速いプレッシャーをかけてボールを奪い、相手陣内でボールを保持し、早いタイミングで手数をかけずに仕掛けることは狙い通りにできていました。前半 30 分、コーナーキックのチャンスに一度は相手 GK に止められたかに思われたボールを 2 年伊藤がゴールに押し込み、先制ゴール！その 5 分後にはシュートのこぼれ球を 2 年阿部がゴールに蹴り込み 2 点目を奪い、前半終了。

ハーフタイムにスタッフから、ボールの出し手と受け手の意識を合わせるよう、指示が出ると、後半の立ち上がりから、ボールの受け手の動きがよくなりました。すると後半 15 分、1 年小林尚が 2 年石原からのスローインをペナルティエリアに抜け出し受けようとしたところ、相手のファウルを誘って PK を獲得。これを決めると、あとは 2 年齋藤の 1 得点、2 年佐田の 2 得点で 6-0 で圧勝しました。

チームで行おうとすることを一人一人が実行しようとしたことが、この点差に結びついたのでないかと思います。

3 回戦の相手は都立小平西高校。この試合は前線の強い動き出しと、ディフェンスをコンパクトに形成し、中盤のディフェンスに厚みをもたせて戦うことを狙いしました。

この試合も都立昭和高校戦同様に前線からプレスをかけ、ディフェンスをコンパクトに形成した中で、インターセプトでボールを奪い、序盤から主導権を握ることができました。前半 10 分に左サイドからのパスを 2 年齋藤が相手 DF をかわしてシュートを決め、口火を切ると、前半 15 分と同じく左サイドからのセンタリングを 1 年小林尚がゴールを決めました。さらに前半の 19 分、左サイドの 2 年石原のゴール前へのパスに走り込んだ 2 年平野が合わせ、ゴール！同様の形で前半 23 分にも得点を奪い前半ではほぼ試合を決める展開に。その後、相手にコーナーキックから 1 点を返されましたが、エンドが変わった後半 1 分には、1 年小林尚のセンタリングに 2 年勝又が合わせてゴール。後半 11 分には 1 年小林尚、後半 39 分にも 2 年佐田が決め、7-1 で勝利しました。

相手 DF の裏へ効果的なスルーパス、ロングボールが狙い通りに決まり、大量得点も奪えましたが、失点があったので、反省点もあったゲームでした。

準々決勝の相手は都立上水高校。相手はカウンター攻撃を行ってくるチームだったので、カウンター攻撃の対策として、ボールの出どころを抑えること、ボール奪いにいくのか、ゴールを守るのか、判断を早く行うことを狙いしました。

試合開始から、チームで連動してプレスをかけ、相手の出鼻をくじくと前半 4 分に 2 年伊藤からのパスを左サイドの深い位置で受けた 2 年平野が相手 DF を振り切り、いきなりの先制ゴールを奪いました。この勢いで 2 点目も奪えるかと思いましたが、引いて守る相手に対し、ボールは保持し

ているものの、相手のディフェンスを崩しきれずに、なかなか得点を奪うことができませんでした。この状況に、スタッフから「中盤の選手がボールを持ったらプレススピードを上げよう」、「チャレンジをしないと相手は怖くないぞ」と指示がかかると、プレーのスピードを上げようと選手が応えました。前半 38 分、相手ゴール前でボールを受けた 2 年栗原が鋭いターンから、ミドルシュートをゴール左に突き刺し、待望の 2 点目を奪いました。

ハーフタイムにスタッフから、相手のサイドをどう崩すかイメージを持つことや、引き出した相手の背後をとるプレーを行うことなどの指示を受け、後半へ。後半 3 分に指示通り、2 年平野から右サイドの突破を図った 2 年斎藤への絶妙なスルーパスが通り、そのままシュート。防がれるもののこぼれ球を 2 年阿部がゴールへ蹴り込み、試合を決定づける 3 点目を奪いました。その後は、2 年栗原を中心に落ち着いてボールを保持し、ボールを失っても、パスの出どころを読んで、素早く前線からのプレスをかけ続けることができました。交代で入った 2 年の泉池、奥、厚木、橋本、光永も体を張ってボールを奪いに行き、よく動いて、ピンチを未然に防いだり、チャンスを演出していました。

結果は 3-0。狙い通りに、相手にカウンターをさせないプレスをかけることができました。しかしながら、得点を奪うチャンスがたくさんあっただけに、決定力という課題が残りました。

準決勝の相手は創価高校。相手の戦術は縦へのロングボールを多用してくるだろうという予想だったので、チャレンジ&カバー等、その対応をきちんと行うことをテーマに戦いました。

試合開始から予想通り、創価高校は前線の選手に対して、ロングボールを蹴ったり、ロングスローを投げ込んだりして、相手を自陣深くに押し込み、主導権を握ろうとしてきました。始めのうちは、相手の体の強さとペースに、ゲームの流れをつかめませんでした。国分寺は持ち前の粘り強いディフェンスで対応しました。

前半の半ばあたりから、落ち着いてボールをつなげるようになってくると、2 年栗原を中心に競り合いからのセカンドボールをカウンター気味にリズムよくパスをつなぎながら、相手陣内に攻め入る形が出てきました。いい形が出来始めた前半 28 分には左サイドからのセンタリングを 2 年斎藤が詰めるも相手 GK の好セーブに阻まれ、惜しくも得点になりませんでした。しかし、その 3 分後、コーナーキックを 2 年山中が直接ゴールに決め、待望の先制点を挙げると、立て続けに 2 年栗原からのパスを受けた 1 年小林尚がゴール左隅に落ち着いて決め 2 点目を挙げました。

前半をいい形で折り返した国分寺でしたが、後半 3 分に自陣中央でボールを奪われ、失点すると、その 2 分後にもう 1 点奪われ、後半開始早々同点に。スタッフからは、「(守備は) バラバラにいかないで、全員でブロックを作って!!」など、修正の指示がでましたが、勢いの出た相手に押し込まれる時間が続きました。すると、後半 15 分、右サイドからのフリーキックを頭で合わされ、逆転されてしまいました。

試合の流れを変えるべく、2 年佐田、平野、阿部を交代でピッチに送りました。試合の流れは国分寺に傾き、決定的なチャンスも生まれました。後半 22 分、2 年栗原のミドルシュ

ートは相手 GK の好セーブに阻まれ、その数分後の 2 年石原の左サイドから中へドリブルで切れ込んでからのシュートもわずかに枠の外にはずれるなど、あと一步のところゴールを奪うことができず、そのまま 2-3 で惜敗しました。

この試合の課題としては、失点後の立て直しや決定力などが挙げられました。国分寺の修正力の高さで反省点を改善していきたいです。

3 位決定戦の相手は、錦城高校。この試合では、先日の反省に加え、これまで行ってきた練習成果を発揮するために、相手をよく観察して相手の狙いを感じ取り、自分たちのできることを行うことをテーマとして戦いました。

立ち上がり、しばらく固さがみられ、攻め込まれる場面がありましたが、チームで声を掛け合い、落ち着いてくるとボールをテンポよく回せるようになりました。始めのチャンスは前半 15 分、2 年平野からゴール前、右サイドの 2 年厚木へ絶好のパスが通りました。得点かと思われたシュートはわずかに枠を捉えられず、ゴールバーにはね返されました。続く前半 20 分、ゴール前右サイドから 2 年栗原がシュートを放つも逆サイドのゴールポストに当たり、ノーゴール。自陣深くに引いてブロックを作りながら 5 バックで粘り強く守る相手に対し、圧倒的にボールを保持していたもののゴール前、最後のところで決めきれない展開が続き、前半が終了。

ハーフタイムでスタッフから、相手の DF と駆け引きをすること、パスを出すときは相手 DF を見て出すこと、などのアドバイスがあり、後半へ入りました。

後半も前半同様に、引いて守る相手にボールを回しながら、チャンスを伺う展開になりました。駆け引きを行いながら、何とか相手を崩そうと中央から、サイドから仕掛けを試みますが、なかなか崩しきれず、時間が過ぎていきました。スタッフから、「次の次を予測して！」「ゴールに向かって縦に速く！」など指示を受け、国分寺は相手ゴールに何度も迫りました。後半 32 分には 2 年奥のロングシュートを相手 GK が好セーブを見せるなど、得点が入りそうで入らない時間帯が続きました。そうして誰もが延長を考え始めた後半 38 分、2 年栗原がインターセプトからドリブルで持ち込みシュート！放たれたボールは相手ゴールに突き刺さり、待望の先制点を奪いました。結局これが決勝点となり、勝利することができました。

新人選手権は第 3 位という結果で終了しましたが、今回の経験を次の大会へ活かせるよう、頑張っていきたいと思います。